

令和7年度ボランティア活動奨励賞受賞団体一覧

1	団体名	特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎		
	代表者	代表理事 益永 律子		
	所在地	茅ヶ崎市	活動開始時期	2015年3月
	活動分野	まちづくりの推進		
	活動の概要	地域や世代をつなぐための交流の場や機会を提供することによって、住民の自発的な活動を支援し、豊かな環境と景観の形成及び持続可能なコミュニティづくりを実施。		
選考理由	<p>今日、全国的に課題となっている団地再生のために、さまざまなセクターと新旧住民が交流を深めながら、コミュニティづくりを着実に進められてきたことを高く評価しました。令和7年に、設立10周年を迎えられたとのことで、その節目に奨励賞を受けることによって、今後の活動展開に弾みがつけばと思います。</p> <p>スペースを活用した多世代・新旧住民の交流促進、地域課題の解決に向けたまちづくりの推進、人材育成、情報発信という4つの事業内容の成果を見ると、団地再生にとって必要なことや大事なことを、奇をてらわずに丁寧に取り組まれてきたという印象があります。</p> <p>また、地域住民が主導しつつも、事業者、行政、専門家などと協働・連携して、具体的な取組に落とし込んで実践されており、今日求められている協働型社会のモデルとなっているように思いました。</p> <p>さらに、中間支援を事業の中心に置くと、市民が関われる余白が少なくなりやすいものですが、「しろやま公園サポーターズ」における清掃活動や花壇管理のように、誰もが参加しやすくても見えやすい活動を毎月実施している点も、地に足が付いているようで好ましく感じました。</p> <p>近年は、団地再生などのまちづくり事業に企業の参入が増えていますが、住民の消費活動を促すことに力を入れているように見える例もあります。持続可能なコミュニティづくりにおいては、住民がまちづくりの中心を担うことが大事だと思います。これからも、これまでと同様に、多様なセクターと連携しながらも、つねに「誰にとっての」「何のための」取組なのかを確認しながら、着実に活動を継続されることを期待します。</p>			
2	団体名	NPO法人あっちこっち		
	代表者	理事長 厚地 美香子		
	所在地	横浜市中区	活動開始時期	2011年8月
	活動分野	学術、文化、芸術又はスポーツの振興		
	活動の概要	芸術を通し、病気など困難な状況にある子どもやその家族、被災地と県内住民、特にコロナ禍ではコミュニティを繋げるイベント等、多方面での社会貢献活動を実施。		
選考理由	<p>学術・文化・芸術の分野において、音楽やアートをツールとして被災地支援や子どもホスピスとの連携を行うなど、プロの芸術家による社会貢献の場を創出している点を高く評価しました。</p> <p>例えば、困難な状況にある子どもたちに対し、クオリティの高い芸術体験を提供することでQOL（生活の質）の向上に寄与していることや、若手アーティストの育成と社会課題の解決を両立させる「子どもホスピス芸術学校」などの取組は、独自性が高く、今後の広がりが期待できるモデル的な活動と言えます。東日本大震災以降、長年にわたり被災地に寄り添い続けてきた実績も、県内の活動に波及効果をもたらしています。</p> <p>今後は、登録アーティストのネットワーク拡大に加え、その活動を支える運営スタッフやボランティア等の共感者の輪をさらに広げ、組織基盤をより盤石なものとしていくことが望まれます。本奨励賞の受賞が、芸術による社会貢献活動の先駆的なモデルとして、全国へ活動を展開していく契機となることを期待します。</p>			

3	団体名	特定非営利活動法人市民の会 寿アルク		
	代表者	理事長 三浦 保之		
	所在地	横浜市中区	活動開始時期	2011年2月
	活動分野	保健、医療又は福祉の増進		
	活動の概要	電話・面接・サロン活動・啓発活動を通して、依存症等障害者及び生きづらさを抱えた人々を支援する。依存症回復拠点になるよう関連資料を集め、研究者、市民に役立てる。		
選考理由	<p>既存の医療や福祉制度では十分な支援ができない依存症を含む課題を抱えた方たちとそのご家族等に対して、団体がこれまで培ってきた独自の資源やノウハウを活用して長きにわたりサポートを行ってきたことを高く評価しました。</p> <p>特に元依存症当事者の方が相談員を担われていることは、団体ならではの仕組みであり、相談者に寄り添った対応ができることに加え、当事者には回復後を見通せることにつながり、安心や励みになっているものと考えます。</p> <p>今後も無料で相談を実施されたいとのことです。事業を安定的に継続するためには引き続きさまざまなご努力が必要になるものと察します。その際、この取組の理解者を増やすことや、担い手を育てていくことも重要になると考えますが、現在、すでに大学生の実習生受入れや公開講座を実施されているとのことです。今後もこうした取組に注力していただければ幸いです。受賞を契機に、ヒューマンサポートセンターの活動とその意義がより多くの方に理解され、相応しい支援が得られることを期待します。</p>			
4	団体名	一般社団法人かたわら		
	代表者	代表理事 高橋 悠太		
	所在地	横浜市西区	活動開始時期	2023年4月
	活動分野	人権の擁護又は平和の推進		
	活動の概要	広島・長崎の被爆者を追体験する中高生向け教育プログラムを開発し、提供。神奈川県を中心に平和のための市民の対話の場づくりと政策提言に努めるユース主導の活動を実施。		
選考理由	<p>法人代表の学生時代からの運動に始まり、核廃絶に向けて、若者達が被爆体験者とも手を携え戦争や原爆被害の記憶をつなぐ活動を地道に積み上げてきたことを高く評価しました。そして、被爆地の広島、長崎ではなく、あえて神奈川県を法人設立場所に定めたことによって、日頃原爆被害があまり身近にない人達の間にも、核廃絶の認識が高まっていくことが期待されます。</p> <p>戦後80年が過ぎ、被爆体験者が亡くなっていく中で、戦争経験を持たぬ若者達が、その記憶を受け継ぎ、タイムトラベラーという教育プログラムや、AIを使った被爆者証言の記録など、今の時代に即した手法で核廃絶・平和構築に取り組んでいることに、モデル性を見出すこともできました。世代を超えて記憶に留め続ける「持続可能な平和事業」の先駆的モデルとなるよう頑張っていたきたいと思えます。</p> <p>法人設立からは3年弱であることから、今後、法人の組織基盤、財政基盤を堅固なものとするべく努め、法人としての活動の深化を図っていくことが望まれます。神奈川県においても、団体の活動への共感の輪が広がり、独自性ある事業が展開されていくことを願っています。</p>			

5	団体名	一般社団法人 IKKA		
	代表者	代表理事 久保 雅美		
	所在地	横浜市磯子区	活動開始時期	2019年9月
	活動分野	保健、医療又は福祉の増進		
	活動の概要	<p>ダウン症のある人たちの「強み」や「良さ」を活かし、彼・彼女らしく輝いて活躍できる場や、選択肢を広げることを目的に、保護者が中心となった活動を実施。</p>		
選考理由	<p>団体が実施するダウン症のある人たちに特化した「Dキャリアプロジェクト」は、「ジョブメイト養成講座」により育成したジョブメイトが業務のサポートをしながら、「ダウンインターン」による就労支援を実施していくという、大変独自性のあるプロジェクトとして注目しました。特にこのプロジェクトを通して、団体の目指す、ダウン症のある人とその家族の「強み」や「良さ」を活かしながら、その可能性や、選択肢を広げることを実現していることを高く評価しました。</p> <p>実際に「ダウンインターン」実施回数やメンバー、ジョブメイトの参加者数、養成講座受講者が年々増加していることも、団体のプログラムへの共感者が多いことの表れであると理解しています。</p> <p>「ダウンインターン」では、清掃、接客から飲食業など、選択肢が増えていくことで、受入れ企業の理解や就労受入れのノウハウが蓄積され、さらに、賛同企業が増えることも期待ができます。ここには、橋渡し役となる「ジョブメイト」の役割も相互に意義を見出せる仕組みになっています。貴団体の取組が、多様な働き方を作り出す社会の環境を変えるきっかけになることを期待しています。</p> <p>受賞を契機として団体の「Dキャリアプロジェクト」を知る人が増え、「ダウンインターン」の参加者、受入れ企業の業種の拡大、ジョブメイト養成講座の受講者が増え、団体の活動がさらに発展されることを願っています。</p>			
6	団体名	シニア読み聞かせボランティアりぷりんと・かわさき		
	代表者	代表 セン 美恵		
	所在地	川崎市多摩区	活動開始時期	2006年11月
	活動分野	子どもの健全育成		
	活動の概要	川崎市多摩区内の小・中学校、保育園、子育て支援センター、高齢者施設などで絵本の読み聞かせを実施。		
選考理由	<p>2006年の活動開始から約20年にわたり活動を継続しており、絵本の読み聞かせにより地域社会に貢献していること、また、中心となって活動しているシニアの人たちに地域社会で活躍する場を提供していること、そして、勉強会による質の維持や講座を通じた世代交代、新しい担い手の確保に努めていることを高く評価しました。</p> <p>絵本の読み聞かせは、子どもたちに本に親しむ機会を提供し心の成長を含めたさまざまな成長を促します。また、子どもたちやその保護者の方々と、担い手であるシニアの人たちとが読み聞かせの場を通して交流することにより、豊かな地域社会の形成に寄与していることがうかがえます。</p> <p>少子高齢化や情報化の進展、地域における人々のつながりの希薄化など環境が大きく変化する中で、活動を継続していくには少なからぬご苦労があらうかと思えます。今回の受賞を契機として、シニアによるボランティア活動のひとつのモデルとして、活動が継続していくことを期待します。</p>			